2021/5/12
（うとQ世話し「お金は使わなければ（お金は）入ってこない」）
「金は天下の回「り」もの」
という耳慣れた文言があります。
是を私共は
「金は天下を回「る」もの」
と無意識に思っている帰来がありそうです。
曰く
「(今は苦しくても）そのうちお金は回ってくる」
という、言ってみれば「天の助け」か「他力本願」
しかし、この文言の真意は
「金は天下に回「す」もの」か「金は天下「で」回すもの」
ではないのかな？と最近思うようになりました。
要するに「相互扶助」の為の「自力本願」か「自発始動」
そう思うに至ったきっかけは、在る数字を見たからです。
今コロナ渦で、額こそ違いますが緊急支援の給付金が
太平洋を東に挟んだ大国では、支給された国民によって消費に回され、期待（良い）インフレ率の目安とされる2%を超え、2.3%になり景気が短期間で急回復したのに対し、
昨年国民一人当たり一律給付された「たった10万円程度の額」の内、可成りの額が貯蓄に回され、なんと貯蓄率が35%も跳ね上がったという2つの記事の数字を目にしたからです。
全てはそのせい、ばかりとは言えませんが、我が国の中央銀行が目指す期待（良い）インフレ率2%には遠く届かず、いつまでたっても「失われた30年」が延々と続くデフレ状態から脱却できずにいる。
要するに心理として、我が国では反射的、本能的に「まずは我が身の安全」確保を行って時間稼ぎをし、そのうち「回ってくる（回「る」）もの」である「お金」が、
天の助けで「自然に」または「自動的に」まわって来るのを待つ、
という「他力本願」中心思考であるのに対し、
海向こうの大国の国民心理は、資産に占める株の保有率の高さから見ても「投資しないことには、何も始まらない」
つまり「皆で使わないと景気は良くならない」という「自力本願」「自発始動」の気分が優先的である気がします。
大昔のギリシャ哲学者の
「お金は使わなければ（お金は）入ってこない」
即ち「回して初めて入ってくるものなのだ」
という金言が根底にはあるような気もします。
確かに角度を変えた物の見方をすれば、イソップ童話の「アリとキリギリス」の方が的確だ、

とおっしゃる方もあろうかとは存じます。
要するに「勤勉は遊興に勝つ」とか「備えあれば憂い無し」とかの金言からです。
恐らく、それも正しいのでしょう。
しかしそれも程度次第。
唱えるタイミング次第です。
「度を超す」と碌な事にはなりません。
「タイミングを間違える」と却って逆効果にもなります。
度を「過ぎたるは及ばざるが如く」且つ、時機「過ぎたるは及ばざる、が如し」
（追記）
自戒を込め、平に申上げますと
要は
「たらい回しをせずに、誰が言い出しっぺになるか？その手を上げるか？」
という自問です。
右隣を見て、左隣も見て、様子見しながら「後出しじゃんけん」は、そろそろやめましょうよ、という自戒でございます。
なので、まずは
「自分が手を上げよう」
という決意でございます。